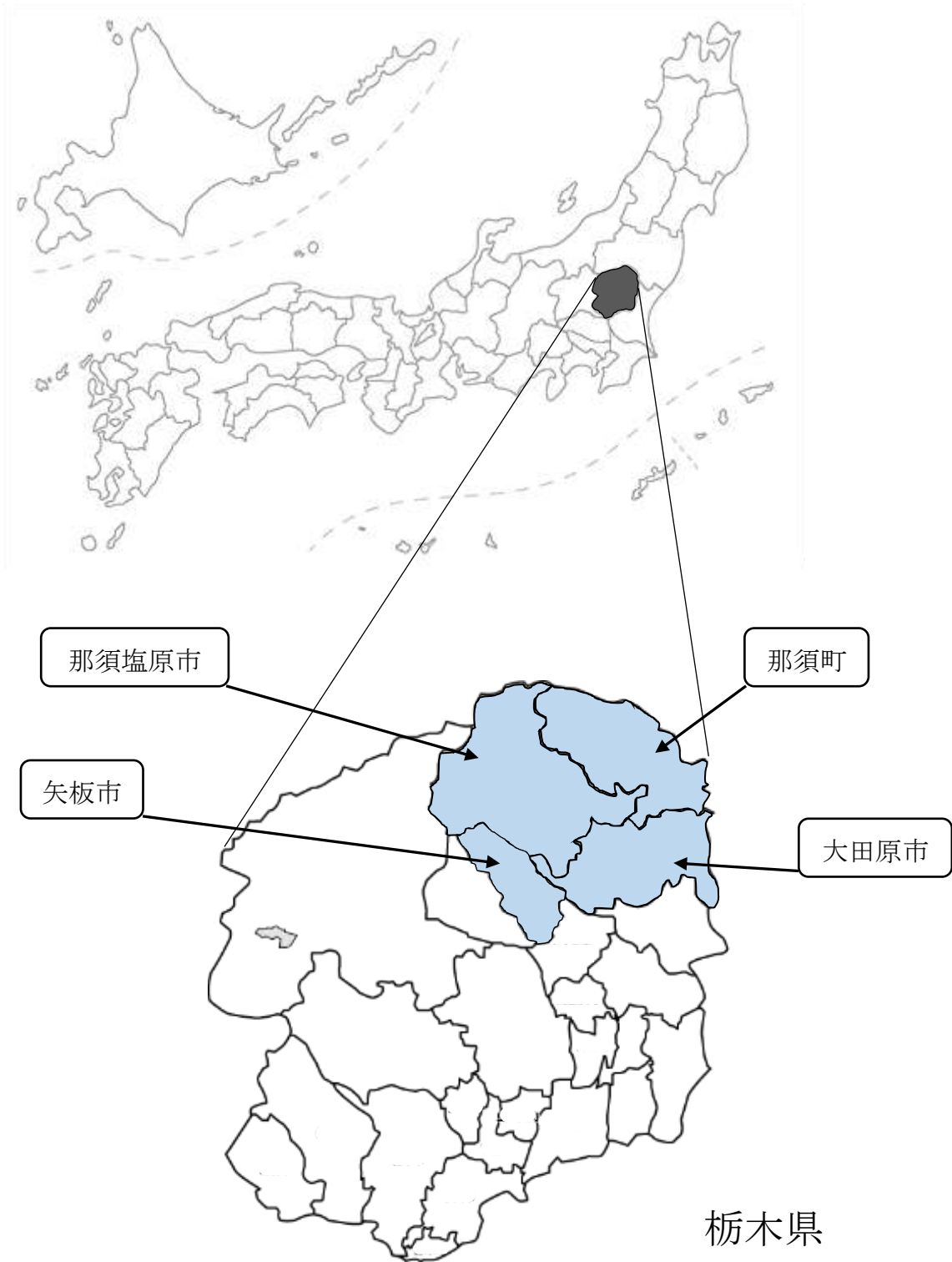


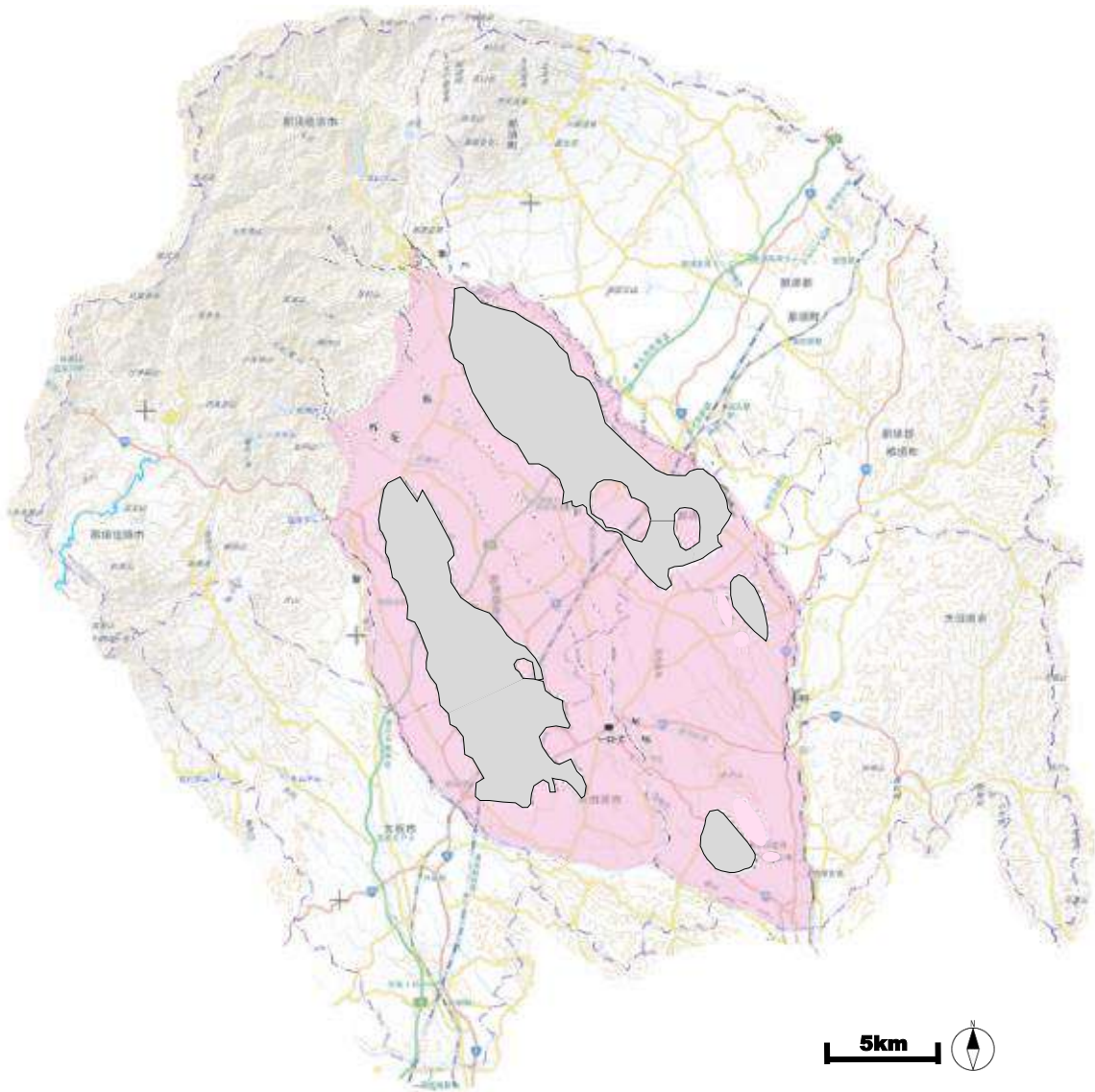
(様式 1-1)

① 申請者	◎那須塩原市、矢板市 大田原市、那須町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
明治貴族が描いた未来 ～那須野が原 <sup>なすの ほん</sup> 開拓浪漫譚～			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>わずか140年前まで人の住めない荒野が広がっていた日本最大の扇状地「那須野が原」。</p> <p>明治政府の中枢にあった貴族階級は、この地に私財を投じ大規模農場の経営に乗り出します。</p> <p>近代国家建設の情熱と西欧貴族への憧れを胸に荒野の開拓に挑んだ貴族たち。その遺志は長い闘いを経て、那須連山を背景に広がる豊饒<sup>ほうじょう</sup>の大地に結実しました。</p> <p>ここは、知られざる近代化遺産の宝庫。那須野が原に今も残る華族農場の別荘を訪ねると、近代日本黎明期の熱気と、それを牽引した明治貴族たちの足跡を垣間見ることができます。</p>			
			
那須野が原の大パノラマの中に佇む松方別邸 <sup>まつかた</sup>		山縣有朋記念館に展示された大礼服 <sup>たいれいふく</sup>	
		大山巖 <sup>おおくやま いづみお</sup> が使用した馬車	



市町村の位置図(地図等)



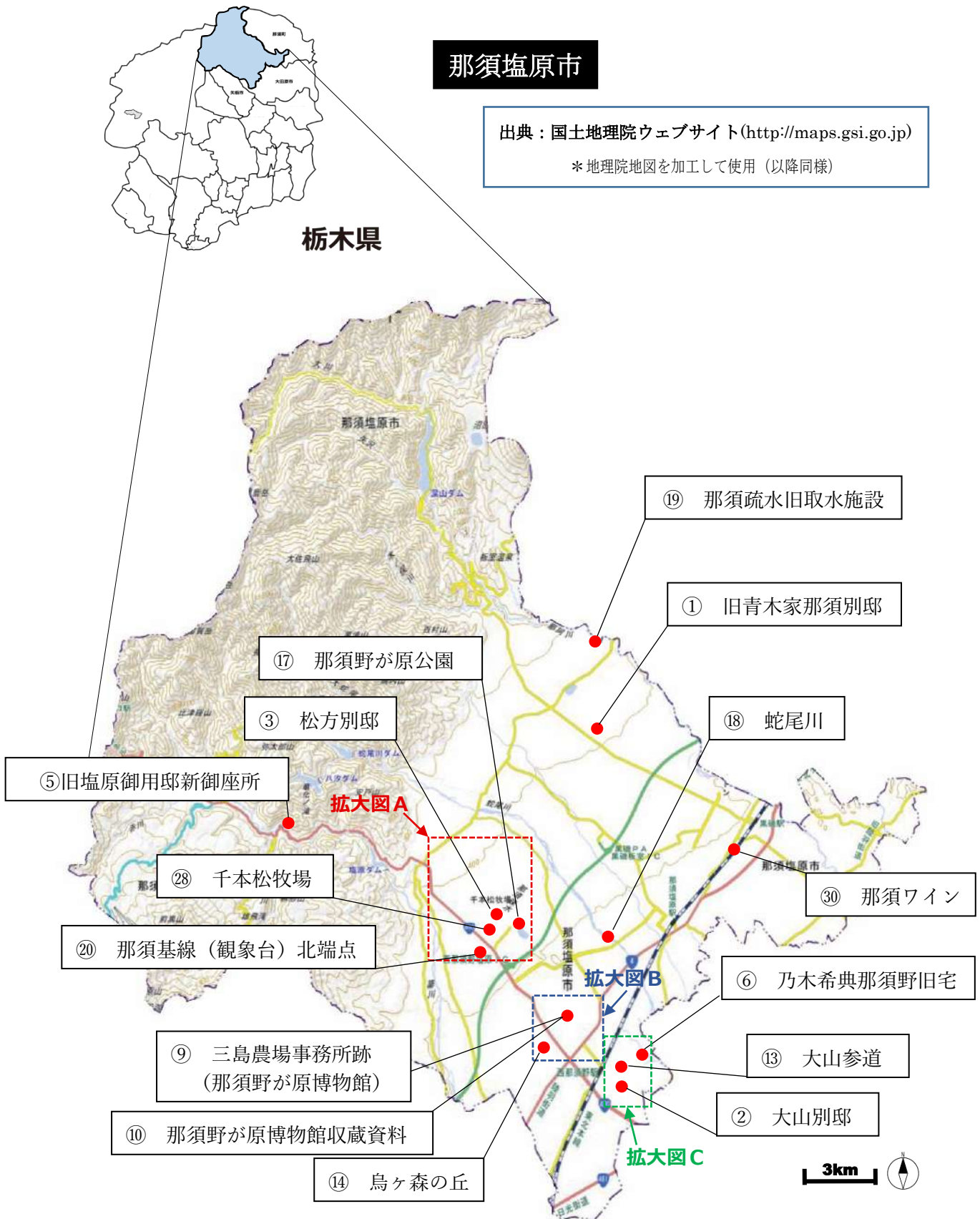
那須野が原位置図



凡例

- |                                                                                     |                   |           |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-----------|
|  | 那須野が原範囲 (扇状地)     | 面積 4 万 ha |
|  | 明治初年における扇状地内の未開拓地 | 面積 1 万 ha |

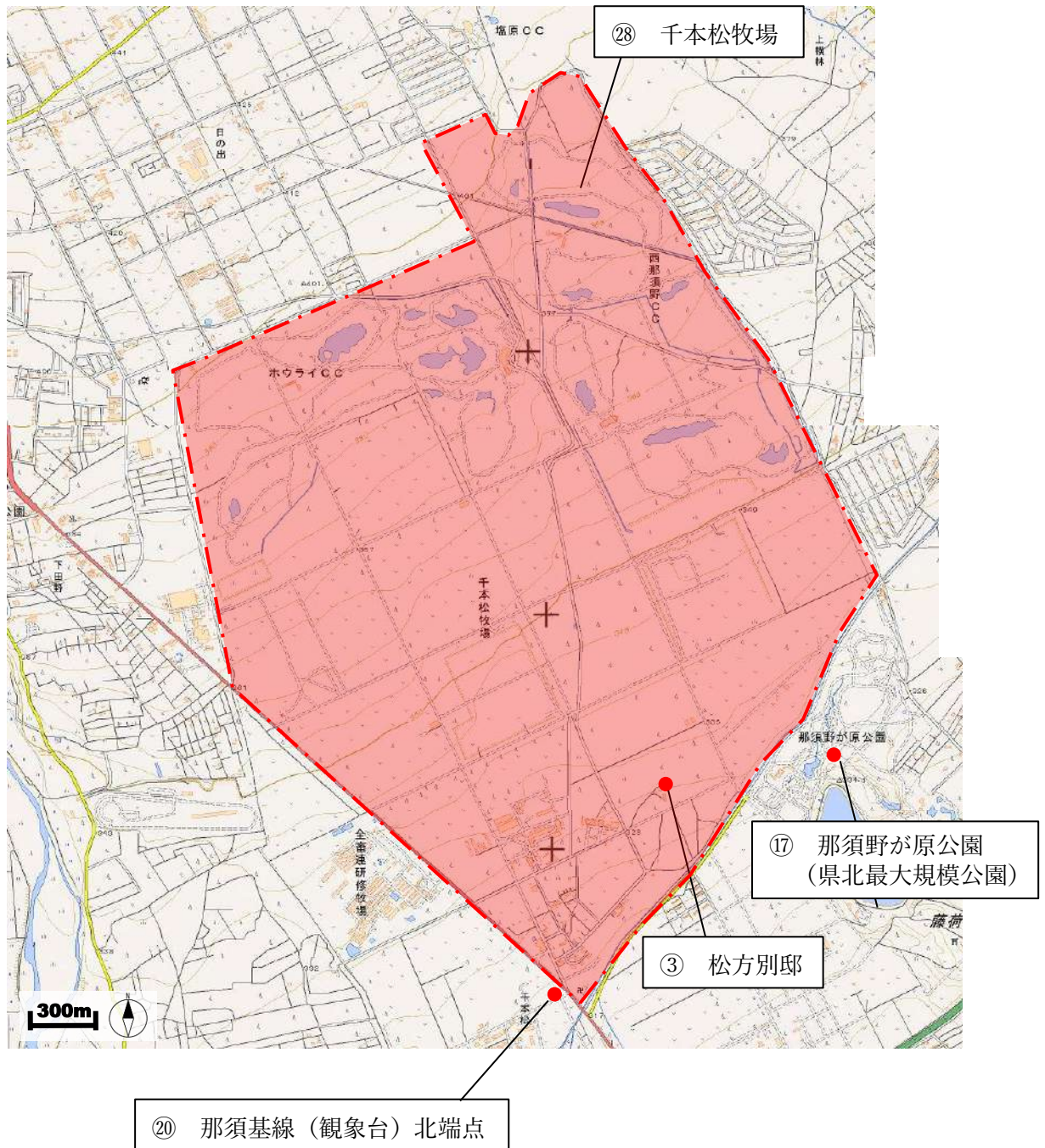
構成文化財の位置 (地図等)





構成文化財の位置 (地図等)

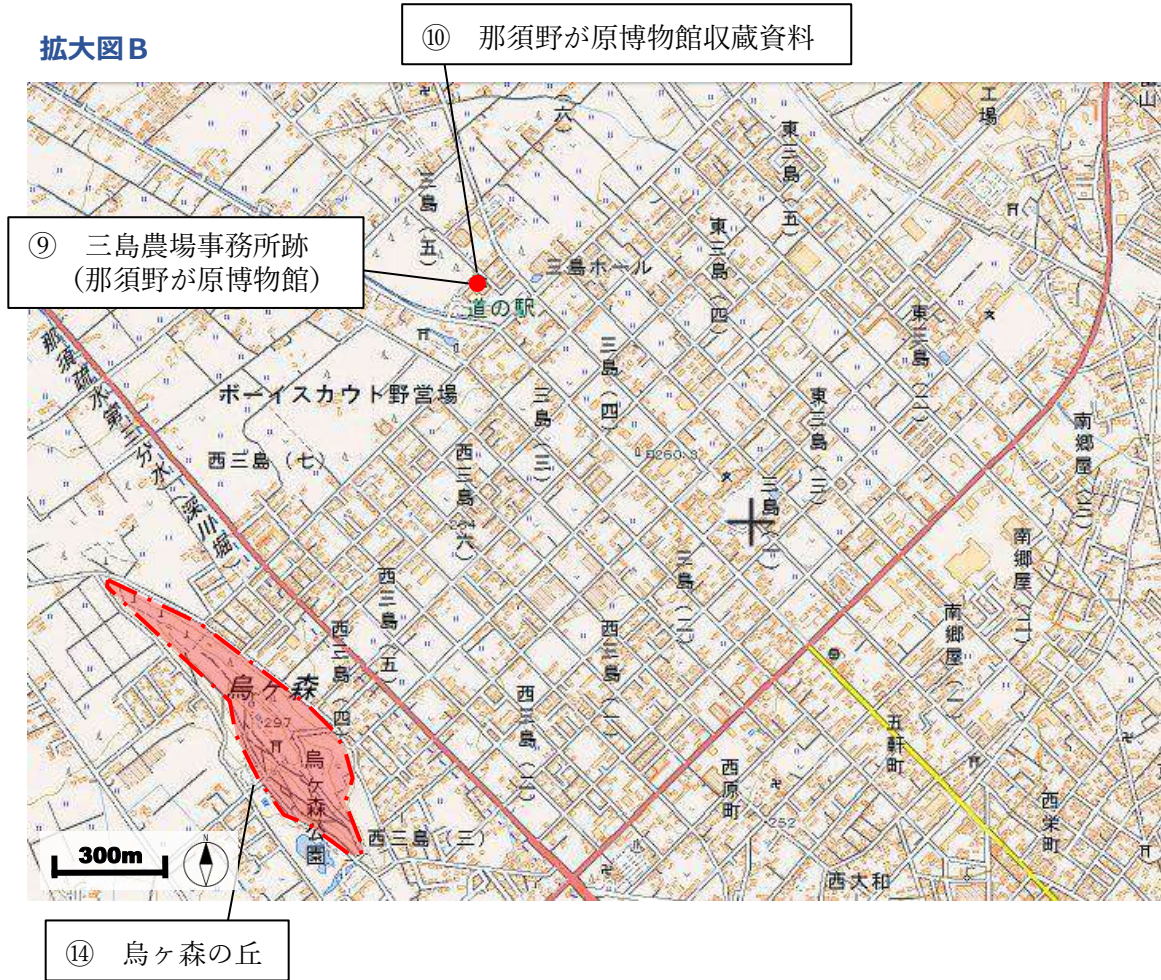
拡大図 A





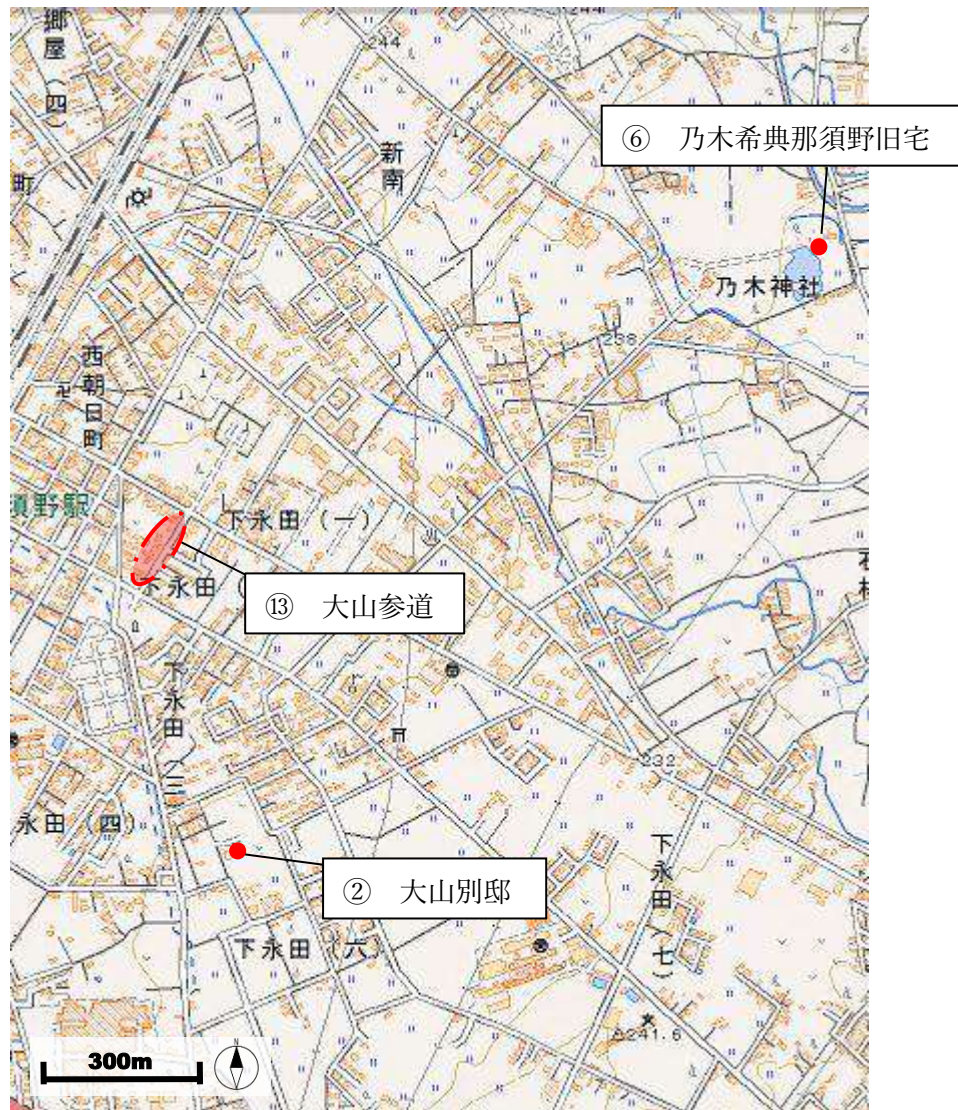
構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 B



構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 C



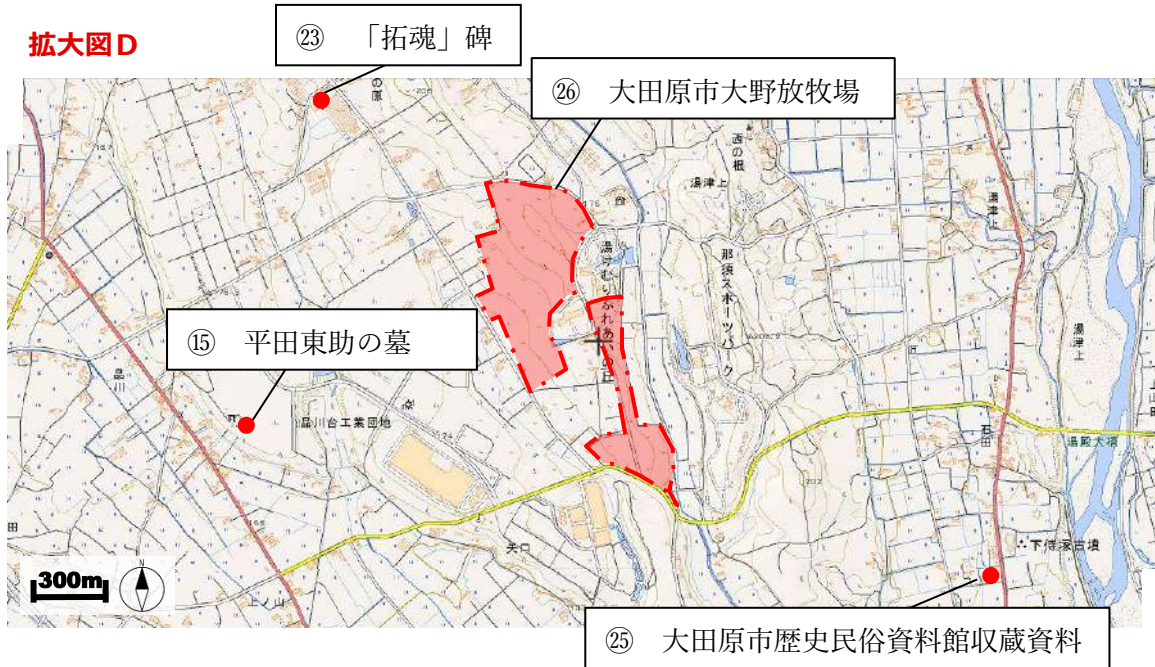


構成文化財の位置(地図等)





構成文化財の位置 (地図等)



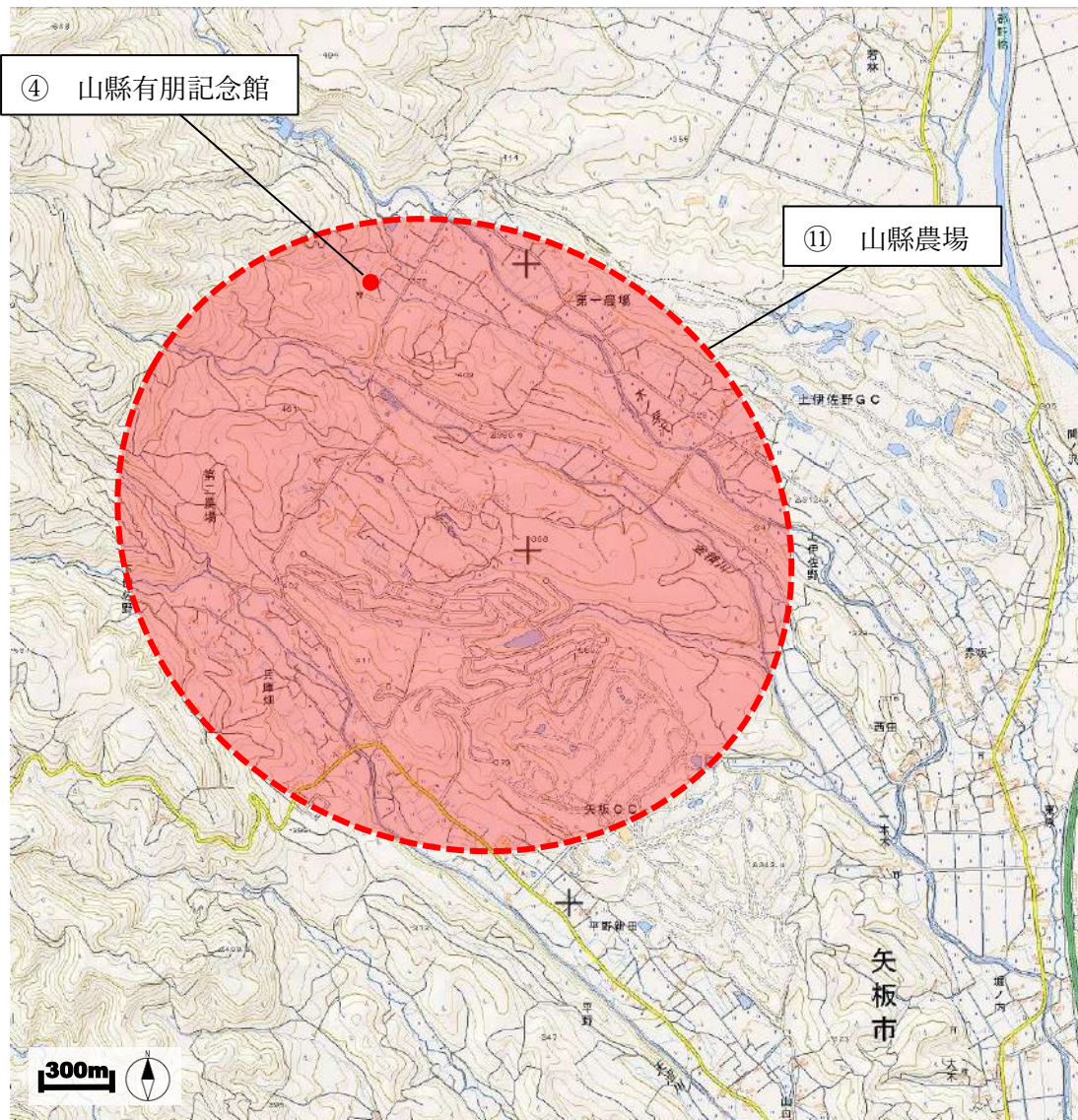
構成文化財の位置(地図等)





構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 E



構成文化財の位置(地図等)





構成文化財の位置(地図等)

拡大図 F



## ストーリー

## 【那須野が原に残る明治の余韻】

長い杉並木を抜けると視界は一気に開け、青空の下にその建物は全貌を現します。中央に物見台を戴くホール棟、左右に羽を広げたように延びる棟にテラスを配した白亜の洋館は、近づくると、壁一面が鷺型の白いスレートで飾られ、屋根に張り出した採光窓が、ユニークな凹凸を描き出しています。まるで映画の一場面のように、いまにも日傘を手に貴婦人が姿を現しそうなその建物は、明治政府で外務大臣を務めた青木周蔵子爵が残した別荘です。このほかにも、様々な趣向を凝らし広大な敷地を有する別荘が周囲の喧騒とは無縁に点在する場所が、関東地方の北端に存在します。



青木農場跡に建つ別荘

栃木県北部に位置する日本最大規模の扇状地「那須野が原」には、明治から昭和にかけて大規模農場がひしめき合った時代がありました。別荘群は、当時の面影をいまに伝える貴重な生き証人です。これらの「大規模農場と別荘」を作り上げたのは、明治維新を牽引した元勳や明治政府の要職を歴任した貴族たち…いわゆる「華族」でした。そして、これら華族農場の成立の背景には、明治政府が推し進めた政策が大きく関わっていました。



山縣農場内に建つ別荘

## 【水の無い大地を拓く～華族農場の成立】

首都東京からわずか150kmに位置するこの地は、明治初年まで人の住めない不毛の原野でした。那須野が原の広さは約4万ha。中央部は土砂や火山岩が厚く堆積し、真ん中を縦断する蛇尾川・熊川は、水が地下に浸透してしまうため約10kmにわたり水の無い川となります。いまでも場所によっては車で横断することが可能な蛇尾川の河床に降り立つと、ゴロゴロと足元に転がる石や流木が、「手にして掬う水も無し」と詠われた時代の風景を容易に想像させます。



水の無い蛇尾川

しかし、この「極めて平坦な大地」は西洋列強に対抗し殖産興業政策を掲げた政府に開拓地として注目され、その実現に向けて、華族階級が出資する農場が、明治13年から20年代にかけ、次々と開設されました。



明治17年から醸造されているワイン

これら華族農場では、大々的に西洋式大規模農法が取り入れられ、開墾と牧畜、植林を中心とする様々な試みが行われました。ブドウ栽培の着手も早く、明治17年には既にワインの醸造が行われ、農場主たちの食卓を彩りました。それは、あたかも首都における欧化政策の象徴「鹿鳴館」と同様、開拓地における西洋文化導入の実践場というべきものでした。あるいは彼らの行動の基盤には、若き日の留学先で目にした欧州貴族の生活とそれを支えた荘園経営への強い憧れがあったのかもしれない。

華々しく展開された華族農場ですが、荒れた大地の開墾は容易ではなく、多くの農場は、採算を度外視した農場主の私財の投入によりかろうじて維持されていました。その理由は、新国家建設への情熱もさることながら、何よりこの土地への深い愛着によるものでした。何人かの農場主は自ら望んでこの地に葬られ、それ以外にも多くの農場主が、死後その名を冠した神社に祀られています。彼らの



情熱に突き動かされ、那須野が原は徐々にその姿を変えていきます。

### 【華族農場がもたらした景観】

華族たちが試みた大規模農場の代表格は、大蔵大臣や総理大臣を歴任した松方正義公爵の「千本松農場」です。松方は水利に乏しい土地には欧米風の大農法が最適であると信じ、西洋農具を導入し広大な土地を開墾、その総面積は最盛期には1,600haに達しました。現在も800haの敷地を有する千本松牧場には、広大な放牧場と飼料畑、平地林が連なり、往時の姿をいまに伝えています。その一角に建つ別荘は、南に全面ガラス窓のサンルームを配した総2階の建物で、1階正面は大谷石で飾り、一見すると石造建築を思わせる重厚さを漂わせています。

人の住めない原野に農場を開いた華族たちは、人を呼び込む新しい「まち」も作り上げていきます。彼らの権力は鉄道や国道を開拓地に引き込み、農場内は正確に区画整理されて、開拓に携わる移住者を迎え入れました。

開拓に欠かせない水の確保のため、「那須疏水」が開削されたのは明治18年のことです。那珂川から取り入れられた水は那須野が原を横断し、4本に分かれて大地を潤し、その流れの先には必ず華族農場がありました。そこから支線が毛細血管のように走り、開墾により開かれた田にいまも水を注ぎ続けています。

### 【「華族たちの夢」から「酪農王国」へ】

華族農場に始まる開拓事業は、明治から昭和へと時を経て、戦後の開拓団に引き継がれました。舞台はかつて開拓には不向きとされた丘陵地へと移り、旧軍用地、国有林などが拓かれ、那須野が原の未開地は塗りつぶされていきました。

明治期から導入されていた牧畜の主流は、羊から乳牛へと代わり、技術革新による生産性の向上でその規模は徐々に拡大、やがてこの地は生乳生産本州一を誇る大酪農地帯へと成長していきます。

那須野が原を横断する県道を走ると、扇状地であるがゆえの、平らな大地に連なる緑の牧場と平地林、その背後にそびえる那須連山の雄姿が織りなすパノラマを楽しむことができます。そこに荒野の面影はありません。それは明治から途切れることなく続く開拓の歴史が作り上げたもの。伝統的な日本の農村風景とは一線を画した雄大な景観です。

いま、この地を訪れる人々は、四季折々の美しさに触れ、自然の中に遊び、大地の恵みを味わうことができます。その傍らで、各所に点在する別荘は、凜とした静寂に包まれながらも、かつての農場主たちが抱いた欧州文化への強い憧れと、彼らが思い描いた近代国家建設の情熱とを静かに語りかけてきます。

訪れる人々を、柔らかな高原の風と、かつて明治貴族が繰り広げた濃密な浪漫ものがたりをもって迎え入れる場所、それが那須野が原です。



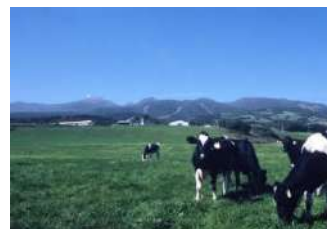
千本松農場跡に建つ別荘



碁盤の目のように区画されたまち



那須野が原に水を運ぶ那須疏水取水口



那須高原に広がる牧草地



青木邸から望む杉並木

情熱とを静かに語りかけてきます。

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	きゅうあおきけな すべってい 旧青木家那須別邸	国重文 (建造物)	那須野が原に展開された華族農場における別荘文化を象徴する建物です。 青木周蔵(子爵・外務大臣)はドイツ翁と呼ばれるほどのドイツ通で、自身の農場内に明治21年(1888)にドイツ様式の別荘を建設しました。 青木子爵はこの別荘を訪れるときには、黒磯駅から馬車で向かったと伝えられています。	那須塩原市
②	おおやまべってい 大山別邸	県有形 (建造物)	大山巖(公爵・元帥)が自身の農場内に建てた別荘で、当初は和風別荘が建てられ、その後、農場内で焼いたレンガを利用した素朴で重厚な造りの洋館が増築されました。	那須塩原市
③	まつかたべってい 松方別邸	未指定	松方正義(公爵・内閣総理大臣)が自身の農場内に、明治36年(1903)に建てた別荘です。現在も広大な敷地を擁する千本松牧場内にあり、当時の姿を色濃く残しています。	那須塩原市
④	やまがたありともきねんかん 山縣有朋記念館	県有形 (建造物)	明治42年(1909)、山縣有朋(公爵・内閣総理大臣)晩年の別荘として知られる小田原古稀庵に建てられた洋館です。設計者は、建築史学者の伊東忠太。大正12年(1923)の関東大震災で崩壊したため、翌年山縣農場内に移築されました。	矢板市
⑤	きゅうしおばらごようていしんござしよ 旧塩原御用邸新御座所	県有形 (建造物)	三島通庸(子爵・警視総監)が塩原温泉郷に建築した別荘が、明治36年(1903)に皇室に献上されたものが前身となっています。昭和56年(1981)に新御座所の部分のみ現在の場所に移築されました。	那須塩原市
⑥	のぎまれすけな すのきゅうたく 乃木希典那須野旧宅	県史跡	乃木希典(伯爵・陸軍大将)が明治25年(1892)に自ら設計した、農家風の質素な別荘です。乃木將軍は生涯4度休職しましたが、多くの時間をこの別宅で過ごしました。敷地内には乃木將軍を祀る乃木神社があります。	那須塩原市
⑦	やいたたけしきゅうたく 矢板武旧宅	市史跡	開拓と那須疏水開削に尽力した矢板武の旧宅です。現在は記念館として整備され、那須野が原開拓等に関する資料を展示・保管しています。	矢板市
⑧	やまだのうじょうじむしよあと 山田農場事務所跡 やまだしりょうかん (山田資料館)	未指定	山田顕義(伯爵・司法大臣)の農場事務所跡です。山田農場及び山田家ゆかりの資料が展示されています。	那須町
⑨	みしまのうじょうじむしよあと 三島農場事務所跡 なすの はらほくぶつかん (那須野が原博物館)	市史跡	三島通庸(子爵・警視総監)の農場事務所跡地です。現在は「那須野が原博物館」が建ち、常設の展示室では様々な資料と模型により、那須野が原の開拓と華族農場の展開についての知識を得ることができます。	那須塩原市



番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑩	なすの ほらはくぶつかん 那須野が原博物館 しゅうぞうしりょう 収蔵資料	市有形、他	日本近代洋画の祖、高橋由一作《鑿道八景》や、那須野が原開拓に纏わる『那須開墾社関係文書』、『那須疏水関係文書』等が保管されています。	那須塩原市
⑪	やまがたのうじょう 山縣農場	未指定	明治19年(1886)に山縣有朋(公爵・内閣総理大臣)が開墾した農場跡です。現在も「第一農場」「第二農場」という名称が行政区として存続しています。	矢板市
⑫	さいごうじんじゃ 西郷神社	未指定	西郷隆盛の弟、西郷従道(侯爵・元帥)を祀る非常に珍しい石製の神社です。西郷侯爵は、明治34年(1901)に従兄弟の大山巖公爵と共同経営していた加治屋開墾場を分割し、西郷農場を営営しました。西郷侯爵没後、農場地内に本神社が建立されました。	大田原市
⑬	おおやまさんどう 大山参道	市記念物	大山巖公爵は大正5年(1916)に亡くなりましたが、本人の遺志により、遺体は那須野が原の農場内に葬られました。参道は、大正6年(1917)に、宮内省技師の設計により整備されました。	那須塩原市
⑭	からすがもり おか 烏ヶ森の丘	市史跡	明治18年(1885)那須疏水開削の起工式が挙行された場所で、丘の上からは三島通庸が農場内を区画整理した「碁盤の目」と呼ばれる街並みを見渡すことができます。	那須塩原市
⑮	ひらたとうすけ はか 平田東助の墓	未指定	品川弥二郎から譲渡された傘松農場を営営し、信用組合(産業組合、現在の農協など)の礎を築いた平田東助(伯爵・内大臣)の墓碑です。	大田原市
⑯	こてやさんりょくちこうえん 御亭山緑地公園	未指定	那須野が原東部に位置する標高512.9mの山で、山頂は公園として整備されており、那須野が原を一望できる景勝地となっています。	大田原市
⑰	なすの ほらこうえん 那須野が原公園 けんぼくだいきぼこうえん (県北大規模公園)	未指定	当時の原生林が残る旧千本松農場、旧三島農場にまたがる位置に整備された県営の大規模公園です。総面積は約57haで、当時の面影を残す自然林と丘陵を活用し、那須野が原や那須連山の眺望を楽しむことができます。	那須塩原市
⑱	さびがわ 蛇尾川	未指定	大佐飛山・日留賀岳方面を源流とする全長41.1kmの河川です。那須野が原扇状地の扇中部で伏流し約12km下流で地表に現れるため、雨期を除き延々と水のない河床が続き、所々車で横断できる場所もあります。	那須塩原市内 (伏流部)
⑲	なすそすいきゅうしゅすいしせつ 那須疏水旧取水施設	国重文 (建造物)	那須野が原の灌漑を目的とし、明治18年(1885)に国営事業として開削された那須疏水の取水施設の遺構であり、那須野が原開拓事業の象徴的施設です。	那須塩原市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑳	なすきせん かんしょうだい 那須基線 (観象台)	北端点 市指定  南端点 未指定	明治11年(1878)に設けられた測量基準線の北端点と南端点です。2点間の距離は約10.63km。当時この区間に障害物が一切なく、2点を結んだ「たて道」と呼ばれる、本州一長い直線道路が南北に走ります。	那須塩原市  大田原市
㉑	きゅうくろだはらえきしゃかわら 旧黒田原駅舎 瓦	未指定	明治19年(1886)に宇都宮～白河間の鉄道が開通しましたが、当初の計画を変更して、開拓地を縦断するルートが取られました。山田農場の一角に、旧黒田原駅は明治24年(1891)開業しました。駅舎は老朽化により取り壊され、その名残の瓦が、現在那須歴史探訪館に展示されています。	那須町
㉒	しゃおん ひ 謝恩碑	未指定	明治24年(1891)に山田農場を開いた、山田顕義(伯爵・司法大臣)及び山田家への謝意を記した碑です。昭和30年(1955)建立されました。	那須町
㉓	たくこん ひ 「拓魂」碑	未指定	「戦後開拓」としての金丸原開拓の歴史と開拓初代の氏名を記す記念碑で、昭和51年(1976)に金丸原開拓農業協同組合により建立されました。碑の立つ敷地には旧金丸原開拓農業協同組合事務所があり、金丸原開拓の拠点でした。	大田原市
㉔	かいたく ひ 「開拓」碑	未指定	那須野が原北部の未開地には、戦後、旧軍人や満州からの引揚者が入植し痩せた大地を開墾しました。雄大な那須岳を望む千振開拓地に建つ記念碑には、厳しい開拓の様子が刻まれています。	那須町
㉕	おおたわらしれきしみんぞくしりょうかん 大田原市歴史民俗資料館 しゅうぞうしりょう 収蔵資料	未指定	大正14年(1925)に作図された『傘松農場土地台帳図』や『傘松農場事務所』関係の図面などが保管されています。	大田原市
㉖	おおたわらしおやおほうぼくじょう 大田原市大野放牧場	未指定	大田原市宮牧場で、牧区面積は約27haあります。明治期には御料地でしたが、後に陸軍演習場用地となり、戦後は「金丸原開拓」として開拓が進められました。	大田原市
㉗	なすまきしょうどうりようもほんぼくじょう 那須町共同利用模範牧場	未指定	那須連山の東南斜面、酪農乳用牛の効率的な育成を目的として、戦後開拓により作られた、敷地330haを有する放牧場で、現在の那須の風景を象徴しています。	那須町
㉘	せんぼんまつぼくじょう 千本松牧場	未指定	明治26年(1893)に松方正義が開設した農場で、最盛期は約1587haの広さを誇っていました。現在は観光農場として観光客を迎え入れますが、800haに及ぶ敷地は、当時の面影を色濃く残します。	那須塩原市
㉙	みなみがおかぼくじょう 南ヶ丘牧場	未指定	昭和24年(1949)、満州からの引揚者が入植した地域で、満州で培った畜産の知識と経験を生かし、入植当時から酪農を生産基盤とすることを見据えていました。	那須町



番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑩	なす 那須ワイン	未指定	渡邊葡萄園は明治17年(1884)に創業された、ブドウ作りから一貫して行う国内でも最も古いワイナリーの一つです。日本固有種のマスカットベリーAを用いて、創業以来変わらぬ製法で生産されています。生前の乃木将軍が愛飲したといい、今も乃木神社に奉納されています。	那須塩原市
⑪	やいた 矢板のリンゴ	未指定	矢板市は、標高の低い土地でリンゴが生産できる南限といわれ、現在は18のリンゴ園が盛んに生産しています。大正3年(1914)、山縣有朋が青森県から技師を呼び苗木を植栽したのが始まりとされます。	矢板市

構成文化財の写真一覧

①旧青木家那須別邸





②大山別邸



③松方別邸





④山縣有朋記念館





⑤旧塩原御用邸新御座所



⑥乃木希典那須野旧宅



⑦矢板武旧宅



⑧山田農場事務所跡（山田資料館）



⑨三島農場事務所跡（那須野が原博物館）



⑩那須野が原博物館収蔵資料

（高橋由一作《鑿道八景》より

《第八景 三島牧場》）





⑪山縣農場



⑫西郷神社



⑬大山参道





⑭烏ヶ森の丘



⑮平田東助の墓



⑯御亭山（こてやさん）緑地公園





⑰那須野が原公園  
(県北大規模公園)



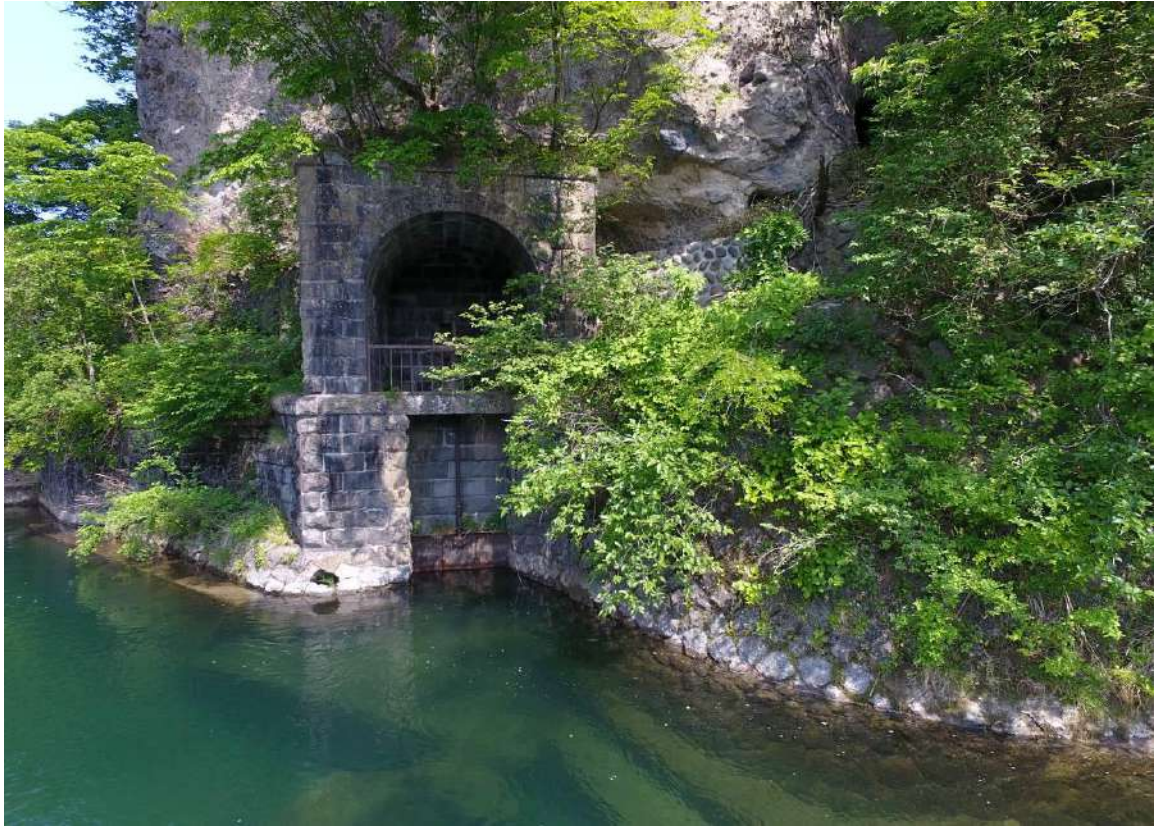
⑱蛇尾川



(蛇尾川の川底を横断する自動車)



⑱那須疏水旧取水施設





⑳那須基線（観象台）

北端点



南端点



㉑旧黒田原駅舎瓦



㉒謝恩碑



㉓「拓魂」碑



㉔「開拓」碑



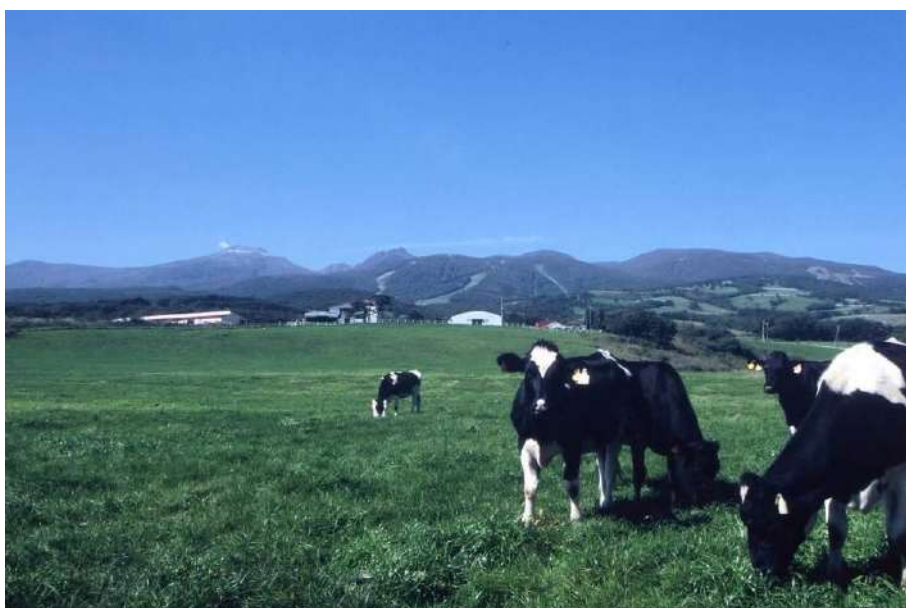
②⑤大田原市歴史民俗資料館収蔵資料



②⑥大田原市大野放牧場



②⑦那須町共同利用模範牧場





⑳千本松牧場





②南ヶ丘牧場



③那須ワイン



③1 矢板のリンゴ





## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
58	明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～

## (1) 将来像 (ビジョン)

那須塩原市、大田原市、矢板市、那須町の4市町を含む那須野が原の歴史は、荒涼たる原野から豊穡なる大地へと変貌を遂げる開拓の歴史である。「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」は、明治政府の中枢にあった華族が、近代国家建設の情熱と西欧貴族への憧れを胸に荒野の開拓に挑んだ歴史であり、那須野が原は開拓を象徴する近代化遺産の宝庫である。

平成30年度の認定以降、様々な取組を進めてきたが、引き続き日本遺産という資源を活用した地域づくりを行うことにより、中長期的な見地に立って実現していきたい那須野が原の将来像(ビジョン)について、次のとおり考える。

○来訪者：「那須野が原」に魅力を感じ、何度でも訪れたい来訪者が増える

「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」のストーリーを様々な形で体験できる機会を提供し、構成文化財やその周辺の地域資源の魅力を活用した取組を発信するとともに、歴史や文化、温泉や自然、食を絡めた観光ルートを提供することにより、回遊性が高く、何度でも訪れたい広域観光地「那須野が原」を目指す。

○地域住民：「那須野が原」に誇りと愛着を持つ地域住民が増える

講座や講演、学校教育を通して那須野が原の開拓の歴史を学ぶ機会を提供するとともに、博物館や資料館、記念館、華族別邸といった構成文化財を訪れ、そこでストーリーを体験できる機会を提供することで、より深い理解を促進し、郷土愛の醸成と次世代への継承を図る。地域住民がこの那須野が原に住んでいることを誇りに思い、地域に愛着を持ってこれからもずっと住み続けたいと思える状態を目指す。

○民間事業者等：日本遺産と地域の魅力を掛け合わせることで地域が活性化する

協議会をはじめ、観光関係者、民間事業者が連携を図り、日本遺産に認定された那須野が原の歴史文化資源を最大限活用し、この地域にもともとある温泉や自然、食といった多くの魅力と掛け合わせることで、観光振興や産業の振興を図り、地域経済の活性化を目指す。

## 【地域の長期的構想における位置づけ】

○那須塩原市

第2次那須塩原市総合計画、第2期那須塩原市教育振興基本計画、那須塩原市文化財保存活用地域計画において、日本遺産を文化振興・観光振興に活用することで、地域活性化

につながる取組を推進することとしている。また、那須塩原市観光マスタープランにおいて、日本遺産を重点取組と位置づけ魅力的な観光商品・サービス開発の推進に取り組むこととしている。

○大田原市

大田原市総合基本計画後期、大田原市文化財保存活用地域計画において、庁内外の関係機関・団体が連携し、日本遺産を総合的に活用することで地域活性化につなげるなど、地方創生に向けた新たな取組を進めていくこととしている。

○矢板市

やいた創生未来プラン（総合計画）、矢板市生涯学習推進計画、矢板市観光振興アクションプランにおいて、文化振興・観光振興のため積極的に活用することとしているほか、矢板市都市計画マスタープランでは日本遺産景観の保全・形成についても取り組むこととしている。また、令和7年度に策定予定の矢板市文化財保存活用地域計画では、日本遺産の保存と活用についての長期的な展望を記載する予定である。

○那須町

第4次那須町観光振興基本計画において、日本遺産での歴史的関係が深い地域との交流など、広域的な地域の魅力向上と新たな観光商品の創出、観光ルートの構築に取り組むこととしている。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：構成文化財の来訪者数（人）

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	38,669	49,285	44,853	47,000	50,000	50,200
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財のうち、来訪者を把握している施設（那須野が原博物館、旧青木家那須別邸、大田原市歴史民俗資料館、矢板武記念館、那須歴史探訪館）の来館者数を把握する。各館で目標値を設定し、その合計値を協議会の目標値として目指す。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：地域住民が日本遺産を誇りに思う割合（％）

年度	実績	目標
----	----	----



	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	70	79	65	70	70	70
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産アンケート調査により、構成市町の住民のうち、日本遺産に認定された地域の文化を「誇りに思う」と回答した割合を、70%に上げ、それを維持する。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：構成文化財の年間入館料（千円）						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	4,140	5,376	4,580	5,381	5,445	5,514
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財のうち、入館料を徴収している施設（那須野が原博物館、旧青木家那須別邸、矢板武記念館、那須歴史探訪館）の入館料を把握する。各館で目標値を設定し、その合計値を協議会の目標値として目指す。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：構成文化財が活用可能な状態にある割合（％）						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	100	100	100	100	100	100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財を適切に維持管理することにより、全ての構成文化財で活用可能な状態を維持する。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の観光客入込数（千人）						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	14,918	16,553	集計中	18,000	19,000	20,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成市町の観光客入込数の調査により、構成市町の観光客入込数を把握し、コロナ禍前の令和元年（2019年）を基準値（18,920千人）として令和7年（2025年）年に上回ることを目指す。					

### (3) 地域活性化のための取組の概要

那須野が原は、明治時代からの開拓の地であり、明治以降にそれまでは荒涼たる原野であったこの地を現在の豊かな地へと導いた開拓の姿を象徴する近代化遺産が点在している。華族の別邸や疏水、牧場など、ストーリーを体感することができる地域資源を活用しながら、地域住民が誇りと愛着を持ち、来訪者が何度でも訪れたいくなる広域観光地「那須野が原」を目指し、地域活性化につなげるため、「観光振興」「普及啓発・人材育成」「環境整備」「情報発信」の4つを柱とし、取組を進めていく。

#### 1. 観光振興

日本遺産那須野が原の現地ナビゲーションや多言語に対応した観光アプリ・Webサイトの構築や、モニターツアーによる調査・分析を基にしたモデルコースの作成、ポタリングツアーによるサイクリングコースの作成に取り組んだ。また、コロナ禍においても参加者を限定して歴史文化と食、温泉、自然を体感する新たなイベントの開催にも取り組み、観光コンテンツの創出を行ってきた。新型コロナウイルスによる観光客数の減少は著しいが、その中でも観光による地域活性化に取り組み、早期の回復を目指しているところである。今後も、日本遺産那須野が原の構成文化財やストーリーを中心に、この地域の歴史文化、食文化等を活かし、ストーリーを体験、体感できるイベントの開催や、サイクリングによる環境にも優しい広域周遊の普及・促進、地域の消費拡大につなげる商品開発等にも力を入れ、地元の産業・観光関連団体との協調を図る。

さらには、観光庁の「高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」のモデル地区として高付加価値インバウンド旅行者層の誘客を進めている。那須エリアの課題である滞在時間の延長や二次交通の改善に向け、今後、滞在体験の魅力創出・向上による滞在時間の増加を行い、地域一体となって心に残る回遊性の高い広域観光に向けた取組を進めていく。

#### 2. 普及啓発・人材育成

認定ストーリーを子どもから大人まで楽しく学ぶことができるストーリーブックを制作して構成市町内の小中学校や図書館、構成文化財の施設、公民館等に配布し、さらにWebサイトやデジタルミュージアム等で電子データを公開している。また、ガイド養成講座や出前講座の実施のほか、教育委員会と協力して小学校の社会科副読本に日本遺産のページを作成し、普及啓発・人材育成に取り組んでいる。しかしながら、那須野が原が日本遺産に認定されているという認知度がまだ低いため、次世代を担う子どもをはじめ、より多くの地域住民に那須野が原の歴史文化や認定ストーリーを認知してもらえるように、引き続きガイドの活用や出前講座等の実施、学校教育との連携を推進する。さらには、企画展の開催や演劇制作・上演など、日本遺産那須野が原について広く学ぶ機会や触れる機会を創出し、郷土愛の醸成と次世代への継承につながる取組を実施していく。

#### 3. 環境整備

ストーリー全体を知ることができる日本遺産那須野が原のメイン拠点として、那須野が原博物館に日本遺産コーナーを整備した。また、電子案内板やQRコードを活用した日本遺産看板の設置など基本的な受入環境の整備を進めてきた。那須野が原博物館の日本遺産



コーナーは常設展示として多くの人に観覧いただくほか、普及啓発や人材育成等の各種事業に活用されている。また、主要施設の1つであり国重要文化財に指定されている旧青木家那須別邸は、周辺環境も含めて四季の魅力があり、学校見学や団体ツアーの受入のほか、雑誌への掲載やロケ等も多く行われている。華族別邸の維持管理については、老朽化や自然災害等、定期的な整備・修繕が必要となるが、日本遺産を体験できる重要な施設であることから、引き続き活用可能で魅力的な状態を維持していく。さらには、メイン拠点である那須野が原博物館の充実や、華族別邸以外の構成文化財も活用可能な状態を保つとともに、デジタルコンテンツの充実を図ることで、日本遺産那須野が原の魅力体験できるような環境整備を進めていく。

#### 4. 情報発信

情報発信及び現地ナビゲーションの充実を図るため、パンフレットや動画の制作をはじめ、多言語対応観光アプリの開設・Webサイトの構築を行い、内容の充実に取り組んでいる。また、イベント告知や成果物リリースの際には日本遺産ポータルサイトのほか、構成市町のホームページやデジタルミュージアム、メール配信や地元紙への掲載を行い、情報の周知を図っている。Webサイトについて、集客事業を実施する際に開設したサイトは閲覧数が多く事業の参加者も多かったが、総合的な日本遺産那須野が原の情報サイトである「ココシル明治貴族が描いた未来」(ココシル那須野が原)のPV数が近年伸び悩んでいる。今後もアプリやWebサイトの内容を充実させてPV数を伸ばすとともに、SNS等の多様な媒体の活用を検討していく。また、日本遺産フェスティバルや観光関連のイベントに積極的に出展し、これまで以上に情報発信を強化していく。

#### (4) 実施体制

○協議会名：那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会

○構成団体

【行政】那須塩原市、那須塩原市教育委員会、大田原市、矢板市、那須町

▶会長を那須塩原市長、副会長を大田原市長、矢板市長、那須町長が担い、中心となって協議会の運営、事業の実施に取り組む。

【文化財関連団体】

那須野ヶ原土地改良区連合、那須疏水土地改良区、那須文化研究会、

那須野が原西部田園空間博物館運営協議会、ふるさとを知る会

▶文化財所有者、地域の歴史文化の関係団体として、主に普及啓発や人材育成、観光振興関連の事業に連携・協力して取り組む。

【観光・産業関連団体】

那須塩原市商工会、西那須野商工会、黒磯観光協会、西那須野観光協会、

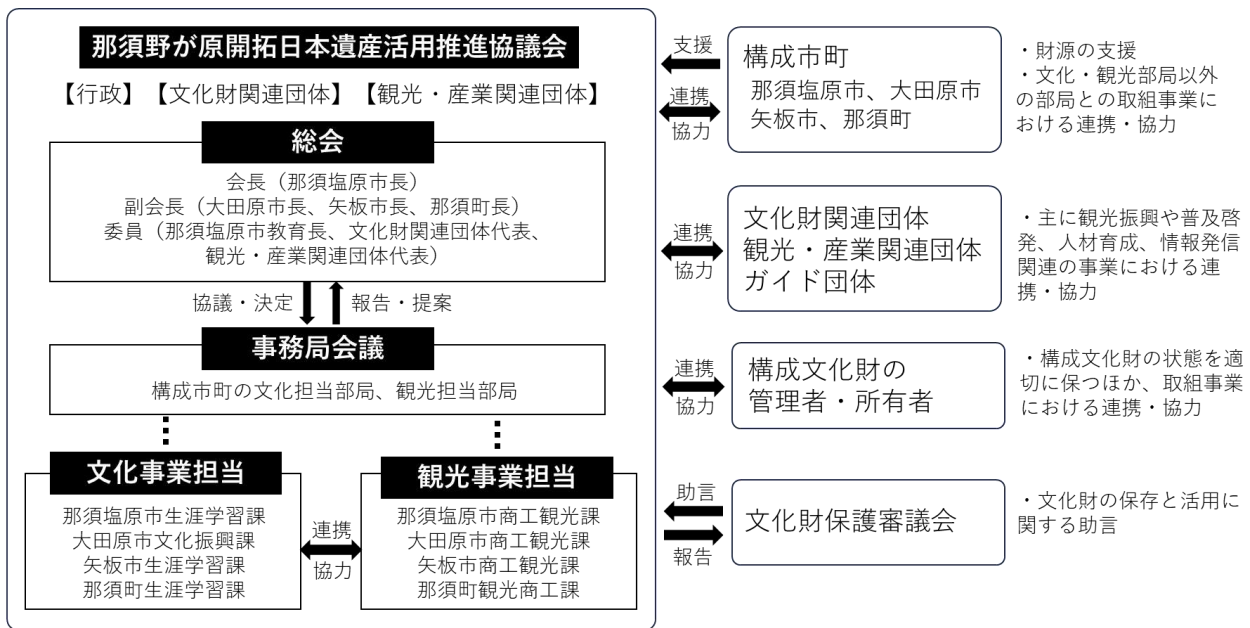
塩原温泉観光協会、大田原市商工団体連絡協議会、大田原市観光協会、

矢板市商工会、矢板市観光協会、那須町商工会、那須町観光協会、那須野農業協同組合

▶観光・産業の関連団体として、主に観光振興や普及啓発、情報発信関連の事業に連携・協力して取り組む。

◎事務局：那須塩原市（生涯学習課、商工観光課）、大田原市（文化振興課、商工観光課）、矢板市（生涯学習課、商工観光課）、那須町（生涯学習課、観光商工課）

行政、文化財関連団体、観光・産業関連団体から選出された者で構成する協議会が最終決定機関として、事業計画や予算・決算の承認、進捗管理を行う。構成市町の文化担当部局と観光担当部局からなる事務局を設置し、関連事業を含む全体の調整を図りながら協議会を運営する。構成団体間で共通認識を深められるよう、協議会の会議を定期的に行うとともに、構成市町や構成文化財の管理者・所有者、文化財保護審議会等とも連携して効果的に事業を実施する。



### [人材育成・確保の方針]

ガイド教本の制作やガイド養成講座を実施し、ガイド人材を育成してきた。ガイド依頼があった際に地域プレイヤーとして活躍しており、今後も連携・協力していく。また、講演会や出前講座等の実施、学校見学の受入、郷土の学習で使用する社会科副読本での日本遺産の紹介、日本遺産那須野が原のストーリーを学ぶストーリーブックの学校配布や図書館・公民館等への配置を行い、次世代を担う子どもたちや地域住民が日本遺産那須野が原について学ぶ機会を提供している。新たに地域の歴史を学習する子どもたちや地域住民に対し、今後もこうした取組を継続することによって、この地域に誇りと愛着を持ち、将来にわたって日本遺産の取組に参画する人材の育成・確保につなげていく。

### (5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会は、構成市町の行政（文化担当部局・観光担当部局）や文化財関連団体の他、構成市町の観光協会や商工会、農業協同組合といった観光・産業関連団体で組織されており、文化財の保存と活用のために必要な組織体制が整備されている。協議会の運営は構成市町の行政からの負担金を財源としており、負担金には那須地域定住自立圏の特別交付税が充てられている。定住自立圏の特別交付税を活用していく



ためには、構成市町が連携・協力することにより、誰もが「住みたい」「住み続けたい」と思える地域を形成するために、魅力ある地域資源を最大限に活用した取組を進めていく必要がある。

地域資源の中でも特に文化財を活用した取組については、行政が主体となって継続することがよりスムーズな活用につながる分野であることから、今後も構成市町の行政が主として財源を支援し、協議会が牽引していくが、観光振興には観光協会や民間団体との連携が必要不可欠であることから、協議会と関連団体の連携をより一層強化し、官民協働による取組を推進していく。

#### (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

協議会の構成市町のうち、那須塩原市と大田原市は文化財保存活用地域計画を作成しており、その中で日本遺産那須野が原に関する取組を位置づけている。文化財保存活用地域計画では、文化財を将来にわたり保存するとともに、活用によってまちづくりを進めていくことを基本的な方針としていることから、日本遺産の構成文化財についても適切に保存するとともに、積極的に活用していく。また、那須塩原市観光マスタープランにおいて、魅力的な観光商品・サービス開発の推進の施策として日本遺産の推進が重点取組に位置づけられていることから、積極的な活用により、文化振興による郷土愛の醸成、観光振興による経済効果につなげることで、保存と活用の好循環の創出へとつなげていく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	計画に基づく事業を企画・実施する組織体制の強化		
概要	地域活性化計画の円滑な推進と、計画に基づく事業を企画・実施する組織体制を強化する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会の持続的運営	構成市町の行政（文化担当部局、観光担当部局）のほか、文化財関連団体、観光・産業関連団体で組織する那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会を継続し、関係団体の連携を強化する。	協議会
②	民間団体との連携強化	協議会の事業に協力し、連携して取り組んでいく団体を確保し、地域の民間団体との連携を強化する。	協議会
③	那須地域定住自立圏における財源の確保	協議会の実施事業について、引き続き那須地域定住自立圏の取組に位置づけ、財源の確保に努める。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会に参画する民間団体数		17 団体
2022			17 団体
2023			17 団体
2024	協議会に参画する民間団体数		18 団体
2025	協議会に参画する民間団体数		19 団体
2026	協議会に参画する民間団体数		20 団体
事業費	2024 年度：7,000 千円 2025 年度：7,000 千円 2026 年度：7,000 千円		
継続に向けた事業設計	事業費について、構成市町の行政計画や広域計画である那須地域定住自立圏共生ビジョンに日本遺産を位置づけ、行政からの財源確保を継続できるように取り組む。		



(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	構成市町の行政計画への位置づけ		
概要	持続的・継続的に日本遺産の事業を推進するため、構成市町の行政計画に位置づけ、中長期的に戦略的に事業を計画・実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	行政計画への位置づけ	中長期的に計画的に事業に取り組む土台を築くため、総合計画等、構成市町の各種計画に日本遺産を位置づける。	行政
②	文化財保存活用地域計画との連動	計画を作成済の構成市町においては、計画に沿った事業に取り組むことで構成文化財の保存と活用を推進する。未作成の構成市町においては作成時に計画に位置づける。	行政
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産を位置づけた行政計画の数		13件
2022			13件
2023			13件
2024	日本遺産を位置づけた行政計画の数		13件
2025	日本遺産を位置づけた行政計画の数		13件
2026	日本遺産を位置づけた行政計画の数		14件
事業費	2024年度： 0円    2025年度： 0円    2026年度： 0円		
継続に向けた事業設計	協議会を通じて計画を策定する構成市町へ働きかけを行う。 構成市町の総合計画や文化庁の認定計画である文化財保存活用地域計画に日本遺産を位置づけることにより明確化し、継続性を担保する。		

(事業番号2-B)

事業名	PDCA サイクルをまわす仕組みの整備		
概要	事業の目的や実施状況を共有し、計画的に事業を推進するとともに、事業効果を検証し、次の取組に向け改善を行う体制を整備する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会総会の開催	協議会の各事業の実施内容を協議し、取組状況を共有し、意思決定を行う会議である協議会総会を年2回程度開催する。	協議会
②	協議会事務局会議の開催	教育分野や文化振興を担当する文化担当部局と、観光振興を担当する観光担当部局が各々の事業やイベント等での連携を強化するため、年2回程度事務局会議を開催する。	協議会

③	事業効果の検証と課題 解決に向けた事業実施	毎年度実施する事業について、協議会で事業効果を検証し、課題解決に向けた改善策を検討し、新たな事業を推進する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会総会・事務局会議の開催回数		4回
2022			4回
2023			4回
2024	協議会総会・事務局会議の開催回数		4回
2025	協議会総会・事務局会議の開催回数		4回
2026	協議会総会・事務局会議の開催回数		4回
事業費	2024年度： 5千円 2025年度： 5千円 2026年度： 5千円		
継続に向けた 事業設計	定期的に総会・事務局会議を開催し、各事業の取組状況を共有することで、協議会の連携強化や実施事業の推進につなげ、協議会で取り組む事業のPDCAサイクルをまわす仕組みを整備する。		



(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名	日本遺産那須野が原に関わる人材の育成		
概要	日本遺産ガイドの活用や出前講座、学校見学との連携を通して、次世代への継承と地域の人材育成を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド活用・連携	ガイドについて各市町の観光局や観光協会で見学することにより、希望者の要望に沿ったガイドを派遣するとともに、認知拡大に努める。	協議会・観光関連団体
②	出前講座の開催	日本遺産の出前講座を開催し、日本遺産那須野が原の魅力と郷土の歴史について、シビックプライドや郷土愛の醸成につなげる。	協議会・行政
③	学校見学との連携	構成文化財となっている施設の学校見学の際に、日本遺産を見学することにより、日本遺産への関心や理解を深め、次世代への継承を図る。	協議会・行政
④	人材の把握	各事業の実施に向けて協働が可能な人材・組織・団体の把握を進める。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	構成文化財となっている施設(那須野が原博物館、		72校
2022	旧青木那須別邸、大田原市歴史民俗資料館、矢板		98校
2023	武記念館、那須歴史探訪館)の学校見学の件数		73校
2024	構成文化財となっている施設の学校見学の件数		90校
2025	構成文化財となっている施設の学校見学の件数		96校
2026	構成文化財となっている施設の学校見学の件数		97校
事業費	2024年度： 0円    2025年度： 0円    2026年度： 0円		
継続に向けた事業設計	ガイドを引き続き活用していくとともに、出前講座や学校見学により、少しでも日本遺産を理解し、語れる人材を育成していく。		

(7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名	日本遺産那須野が原の魅力を感じるための施設・環境整備		
概要	日本遺産那須野が原の魅力を様々な場所で体験できるようにするため、拠点となる施設整備や構成文化財の環境整備を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	拠点施設の整備・充実	拠点施設である那須野が原博物館について、日本遺産コーナーの展示品の更新や、日本遺産に関するデジタルコンテンツを製作するなど、拠点施設としての充実を図る。	行政
②	日本遺産看板・文化財看板の整備	構成文化財に設置している日本遺産看板や文化財看板について、適切な状態を維持するとともに、設置許可の更新に随時対応する。また、整備が必要な看板については関係者と調整の上、整備する。	行政
③	華族別邸等の主要施設の維持管理	雑誌掲載やロケ等にも多く活用される旧青木家那須別邸をはじめとした華族別邸等の主要施設を適切に維持管理することで、常に魅力的に活用できる状態を保つ。	協議会・行政
④	デジタルミュージアムの整備・充実	デジタルミュージアムが整備されている構成市町については、日本遺産のページの充実を図る。未整備の構成市町については整備する際には日本遺産のページを盛り込むようにする。	協議会・行政
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	構成文化財となっている施設(那須野が原博物館、		38,669人
2022	旧青木家那須別邸、大田原市歴史民俗資料館、矢		49,285人
2023	板武記念館、那須歴史探訪館)の来館者数		44,853人
2024	構成文化財となっている施設の来館者数		47,000人
2025	構成文化財となっている施設の来館者数		50,000人
2026	構成文化財となっている施設の来館者数		50,200人
事業費	2024年度：21,278千円 2025年度：未定 2026年度：未定		
継続に向けた事業設計	行政の指定文化財については行政の財源、その他の構成文化財については所有者等の協力により、施設や構成文化財の整備を行うほか、博物館等の展示のリニューアルや、主要文化財を活用できる状態に保つことで、来訪、再訪したいと思える状態にする。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産那須野が原の魅力を体感する観光推進		
概要	日本遺産那須野が原を体感するプログラムやストーリーに関連した場所を周遊する事業を実施することで観光誘客や周遊促進を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	体験・体感プログラムの充実	日本遺産那須野が原のストーリーを体験・体感できるプログラムの充実を図る。明治貴族の復元衣装の着用体験や日本遺産の構成文化財を周遊しながら地元食材を堪能するONSEN・ガストロノミーウォーキングなど、体験メニューを充実させる。	協議会・民間事業者
②	那須野が原周遊促進事業の実施	スタンプラリーや文化財カード収集、フォトラリーなど構成文化財や周辺施設に触れながら楽しく那須野が原を巡る事業を開催することにより、周遊促進を図る。	協議会
③	ストーリー関連商品の開発・販売	ストーリーに関連する商品の企画・開発を行い、民間事業者の販売をサポートする。販売により、経済効果を高めるとともに、誘客拡大につなげる。	協議会・民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産を体験・体感するコンテンツの実施数		—
2022			—
2023			—
2024	日本遺産を体験・体感するコンテンツの実施数		2件
2025	日本遺産を体験・体感するコンテンツの実施数		3件
2026	日本遺産を体験・体感するコンテンツの実施数		4件
事業費	2024年度：3,200千円 2025年度：3,000千円 2026年度：3,000千円		
継続に向けた事業設計	多くの人が日本遺産ストーリーを体験・体感できるよう、DMOを中心とした民間事業者と連携し、国内外の観光客へ向けた高付加価値な商品造成を図る。		



(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	日本遺産那須野が原のストーリーの普及啓発		
概要	那須野が原の歴史文化や構成文化財に様々な形で触れる機会を創出し、次世代への継承や郷土愛を醸成するとともに、企画展等の開催により地域住民への認知度向上を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	学校教育との連携	社会科副読本に日本遺産を掲載し、学校での地域学習につなげる。また、ストーリーブック「那須野が原のものがたり」を学校見学や出前講座等でも紹介することで、次世代に郷土の歴史を継承する。	協議会・行政
②	地域住民への普及啓発	出前講座の開催や地域の歴史関係の講座等への協力、文化財カードの制作・配布や子ども向けパンフレットの作成等、様々な形で地域住民に日本遺産那須野が原のPRを実施する。	協議会・行政
③	日本遺産演劇の制作	日本遺産那須野が原をテーマとした演劇を地元劇団と制作し上演することで、地域の子どもたちを始め、広く認定ストーリーの紹介に活用する。	行政・民間事業者
④	図書館等での企画展	図書館等の施設において、日本遺産那須野が原に関する特集展示を開催し、関連図書・資料とセットで展示することで、多くの人に知ってもらう機会を創出する。	行政
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021			70%
2022	日本遺産那須野が原を誇りに思う割合		79%
2023			65%
2024			70%
2025	日本遺産那須野が原を誇りに思う割合		70%
2026	日本遺産那須野が原を誇りに思う割合		70%
事業費	2024年度：3,000千円 2025年度：3,000千円 2026年度：3,000千円		
継続に向けた事業設計	学校教育や各種講座、演劇や企画展等、様々な形で日本遺産那須野が原のストーリーに触れる機会を創出することで、認知度の向上と次世代への継承、郷土愛の醸成を図る。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	日本遺産那須野が原の情報発信		
概要	協議会や構成市町のホームページ・Web サイト・SNS、日本遺産ポータルサイト等、様々な媒体により、日本遺産那須野が原のストーリーや構成文化財の魅力を効果的に発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	観光アプリや Web サイトの充実	「ココシル那須野が原」や日本遺産ポータルサイト等、観光アプリや Web サイトの掲載内容を充実させ、那須野が原のストーリーやイベント等の周知を図る。	協議会
②	構成市町ホームページや SNS での情報発信	構成市町のホームページや日本遺産那須野が原の SNS による情報発信を開始し、事業やイベント、構成文化財の情報等の周知を図る。	行政
③	メディアを活用した情報発信	新聞等各種メディアを活用しながらイベントや実施事業の情報を発信していく。	協議会・民間事業者
④	日本遺産フェスティバル等での PR	日本遺産連盟や他協議会のイベント等での PR や、各市町の文化や観光関連のイベントでの PR 等、様々な形でプロモーションを行う。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	必要な情報を整備した HP 等（ココシル那須野が原、構成市町の HP）の数		5 件
2022			5 件
2023			5 件
2024	必要な情報を整備した HP 等の数		5 件
2025	必要な情報を整備した HP 等の数		5 件
2026	必要な情報を整備した HP 等の数		5 件
事業費	2024 年度：300 千円 2025 年度：300 千円 2026 年度：300 千円		
継続に向けた事業設計	各団体が保有する情報媒体を活用し、様々な場面で日本遺産那須野が原のストーリーに触れる機会を創出する。		